

2009年第1四半期(1-3月)課税出荷数量ヘッドライン

1. 市場全体の概況

- ◆ ビール・発泡酒・新ジャンル市場は、生活防衛意識の高まりや、少子高齢化・嗜好の多様化などの影響もあり、マイナス(▲3.6%)。
- ◆ ビール市場は、生活防衛意識の高まりもあり、マイナス(▲11.4%)。
- ◆ 発泡酒市場は、新ジャンル市場拡大の影響もあり、マイナス(▲15.5%)。
- ◆ 新ジャンル市場は、依然拡大を継続し、プラス(+29.5%)。構成比は29.2%に。

2. キリン社概況

- ◆ ビール・発泡酒・新ジャンル計は、業界全体がマイナスの中、「一番搾り」「のどごし〈生〉」の好調もあり、プラス(+1.3%)。
- ◆ ビール計は、マイナス(▲5.3%)となったものの、業界平均を上回った。3月にリニューアルした「一番搾り」が、第1四半期では、2006年以来3年ぶりのプラスになるなど、好調に推移。
- ◆ 発泡酒計は、マイナス(▲5.8%)となったものの、業界平均を大幅に上回った。「淡麗シリーズ」は前年並みとなるなど、発泡酒市場における存在感はさらに高まっている。
- ◆ 新ジャンル計は、2桁プラス(+22.6%)。圧倒的な存在を誇る「のどごし〈生〉」が好調を継続。

《ビール・発泡酒・新ジャンル》

- 「一番搾り」、「淡麗シリーズ」の好調と、「のどごし〈生〉」のさらなる拡大により、業界全体がマイナスの中、対前年比プラス(+1.3%)となった。

《ビール》

- 3月にリニューアルした「一番搾り」が、第1四半期では2006年以来3年ぶりとなる対前年プラス(+1.7%)を記録。ビール計でも業界平均を上回って推移。最盛期に向け「勝ちTキャンペーン」などを今後展開する。

《発泡酒》

- 「麒麟淡麗〈生〉」、「淡麗グリーンパル」、「淡麗W」を合わせた「淡麗シリーズ」は、対前年並み(+0.0%)と、業界全体が大幅マイナスとなる中、好調に推移。発泡酒市場に占める構成比は、58.6%を記録し、存在感が増している。
- 2月10日に発売した「淡麗W」は、3月末までに89万ケースと予定を上回る進捗。

《新ジャンル》

- 新ジャンルカテゴリーで圧倒的な販売を誇る「のどごし〈生〉」が、対前年プラス(+16.2%)と依然として好調を継続。2005年の発売以来、第1四半期では最大となる853万ケース販売。

※「一番搾り」「のどごし〈生〉」の対前年比は販売数による

以 上